

委員会の節目における情報整理等について

流域委員会の前体制での検討が終了し、新体制での検討がスタートした。

この節目の時期に、これまでの委員会活動において蓄積された情報の整理を行うとともに、ホームページのリニューアル等を行い、新体制での委員会活動をより広くわかりやすく広報していくための取り組みを進めることが、委員会庶務として必要であると考えている。

1．ホームページのリニューアル

委員会活動も4年が過ぎ、会議の種類や各種資料、成果物が増加するにつれ、ホームページの構造が複雑になり、新体制に移行後のホームページは、現状のままでは利用者の利便性が低下することが懸念される状況にある。

- ・情報媒体としての見やすさ、分かりやすさを追求する。
- ・過去の委員会経緯を理解しやすいようにする。
- ・過去の資料、成果物等の活用を高める検索機能を強化する。

2．「ダムについての意見書」、「進捗点検についての意見書・中間取りまとめ」の印刷製本

これまでの委員会活動の主要な成果物は、適宜、印刷製本して配布、閲覧、および委員会活動の机上資料として頻繁に活用している。前体制の委員会での最終成果物である標記意見書の印刷製本の必要性について、委員会のご意見をお聞きする。

3．委員会パンフレット「新たな河川整備を目指して」の更新版作成

2004年3月に発行された委員会パンフレットは、その副題にもあるとおり「淀川モデルのはじまりから提言・意見書まで」の活動をコンパクトに紹介できるものとして幅広く広報してきたが、この1年間の活動成果および新体制に移行した現時点の情報を盛り込んだ更新版の作成が必要である。

- ・ダム意見書等の答申に至る要点を盛り込み再編集する。
- ・前委員会の課題および新体制の組織および活動方針が把握できるものにする。

4．ニュースレターの合体製本版作成

最近では委員会の一般傍聴者も固定化されつつあることから、活動をより多くの人々にその検討プロセスも含めて理解していただくために、残っているニュースレターを有効活用し、ニュースレターを時系列で整理した「合体製本版」を作成する。

- ・閲覧可能な公的機関等を中心に、地域性や利用者層を考慮して配布する。
- ・委員会、部会毎に全ニュースレターを綴じた冊子とし、5分冊／1セットとする。

なお、上記の2および3については、これまでどおりの配布先を予定している。

以上